

## 平成19年度 滋賀県立高等学校入学者選抜に関するまとめ

平成19年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、定時制1校を含む34校のべ40学科、特色選抜実施校は15校のべ19学科であった。

推薦選抜、特色選抜あわせて、5,978名が出願し、3,075名が入学許可予定者となった。

一般選抜では、平成15年度から、従来の志願登録制度を出願制度に改め、二次選抜の実施や全日制課程と定時制課程を同一日程で実施している。学力検査においては、受検倍率1.09倍であった。また、出願変更率は8.7%であった。

参考 旧通学区別全日制普通科における学区外の入学者許可予定者は、前年度とほぼ同様の割合となった。

### <推薦選抜>

#### 1 出願状況

募集枠2,098名に対して、出願者総数は、2,288名で、出願倍率は、1.09倍であった。

#### 2 受検状況および入学許可予定者

受検者総数2,287名に対し、入学許可予定者総数1,937名で、合格率は84.7%であった。  
(前年度は73.0%)

### <特色選抜>

#### 1 出願状況

募集枠1,138名に対して、出願者総数は、3,690名であった。出願倍率は、3.24倍であった。

#### 2 受検状況および入学許可予定者

受検者総数3,671名(欠席19名)に対し、入学許可予定者総数1,138名で、合格率は31.0%であった。(前年度は23.4%)

### <一般選抜・学力検査>

#### 1 出願状況 ( )は前年度のデータ

出願者数 8,313名(8,911名) 確定出願者数 8,241名(8,847名)

確定出願倍率

全日制1.12倍(1.11倍) 定時制0.69倍(0.56倍) 全・定あわせて1.10倍(1.09倍)

#### 2 出願変更状況

出願変更者数 721名(うち辞退者70名)

出願変更率 8.7%(前年度 7.9%)

(1) 学科別出願変更率では、商業学科が12.8%と最も高かった。(前年度 農業学科14.7%)

(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数は、440名で、出願変更率は8.6%であった。

#### 3 受検者数

受検者総数 8,203名

受検倍率 1.09倍

全日制8,031名 1.11倍(前年度 1.10倍) 定時制172名 0.62倍(前年度0.54倍)

#### 4 入学許可予定者

(1) 学力検査による入学許可予定者数は、7,340名で、合格率89.5%(前年度 90.1%)

(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科

15校21科 (前年度 14校16科)

### <二次選抜>

#### 1 二次選抜募集校・科および募集定員

全日制 11校16科 68名、定時制 4校5科 118名、全・定あわせて 15校21科186名

#### 2 出願者数および出願倍率

全日制129名(1.90倍)、定時制 36名(0.31倍)、全・定あわせて 165名(0.89倍)

#### 3 受検者数および受検倍率

全日制125名(1.84倍)、定時制 35名(0.30倍)、全・定あわせて 160名(0.86倍)

#### 4 入学許可予定者数および合格率

全日制61名(48.8%)、定時制 35名(100.0%)、全・定あわせて 96名(60.0%)

### <入学許可予定者総数および実入学者数>

入学許可予定者総数 10,510名 実入学者数 10,499名

定員充足率 99.0%(前年度99.2%) ただし全日制のみでは99.9%

平成19年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ  
(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[ 全日制の課程および定時制の課程 ]

1 募集定員，出願者数，入学許可予定者数等について

( 1 ) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、定時制1校を含む34校40学科(普通科20、専門学科14、総合学科6)であった。特色選抜実施校は、15校19学科(普通科13、専門学科6)であった。選抜は、同一日の2月7日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校105校中99校(昨年度105校中99校)、県外の中学校は21校であった。出願者数は、普通科で938人(昨年度1,049人)、農業学科で220人(昨年度291人)、工業学科で153人(昨年度231人)、商業学科で336人(昨年度355人)、家庭学科で114人(昨年度115人)、体育学科で47人(昨年度43人)、美術学科で47人(昨年度29人)、国際学科で40人(昨年度40人)、総合学科で393人(昨年度422人)であった。この結果、出願者数合計は、2,288人(昨年度2,575人)となり、出願倍率(募集枠に対する出願者の割合)は、推薦を実施した普通科では1.06倍(昨年度1.30倍)、専門学科では1.17倍(昨年度1.26倍)、総合学科では0.99倍(昨年度1.34倍)となり、実施学科全体では1.09倍(昨年度1.29倍)であった。この結果、1,937人が入学許可予定者となり、合格率は84.7%(昨年度73.0%)であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校105校中103校(昨年度105校中103校)、県外の中学校は21校であった。出願者数は、普通科で3,148人(昨年度3,590人)、工業学科で391人(昨年度508人)、理数学科で74人(昨年度103人)、音楽学科で44人(昨年度42人)、福祉学科で33人(昨年度39人)であった。この結果、出願者数合計は3,690人(昨年度4,282人)となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.81倍(昨年度5.25倍)、専門学科では1.74倍(昨年度2.22倍)となり、実施学科全体では3.24倍(昨年度4.30倍)であった。この結果、1,138人が入学許可予定者となり、合格率は31.0%(昨年度23.4%)であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,075人が入学許可予定者となり、合格率は51.6%(昨年度42.0%)であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目 学科	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	許可予定 者数 C	合格率 C/B' (%)		
		%	人数A'							
推薦選抜	普通科	3,560	15~30	886	938	938	1.06	817	87.1	
	専門学科	農業	440	50	220	220	220	1.00	205	93.2
		工業	440	30~50	196	153	153	0.78	149	97.4
		商業	480	50	240	336	336	1.40	238	70.8
		家庭	160	35~40	60	114	114	1.90	60	52.6
		体育	40	75	30	47	47	1.57	30	63.8
		美術	40	75	30	47	47	1.57	30	63.8
		国際	80	50	40	40	40	1.00	33	82.5
	小計	1,680		816	957	957	1.17	745	77.8	
	総合学科	1,080	30~40	396	393	392	0.99	375	95.7	
合計	6,320		2,098	2,288	2,287	1.09	1,937	84.7		
特色選抜	普通科	3,400	15~30	826	3,148	3,131	3.81	826	26.4	
	専門学科	工業	520	40~50	232	391	390	1.68	232	59.5
		理数	80	50	40	74	73	1.85	40	54.8
		音楽	40	50	20	44	44	2.20	20	45.5
		福祉	40	50	20	33	33	1.65	20	60.6
	小計	680		312	542	540	1.74	312	57.8	
合計	4,080		1,138	3,690	3,671	3.24	1,138	31.0		
総合計	10,400		3,236	5,978	5,958	1.85	3,075	51.6		

(2) 一般選抜の結果

3月7日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,525人に対し、確定出願者数は8,241人であり、確定出願倍率は1.10倍であった。この結果、7,340人が入学許可予定者となり、合格率は89.5%であった。

3月20日に実施した二次選抜は、二次選抜定員186名に対し、受検者数は160人であった。この結果、96人が入学許可予定者となり、合格率は60.0%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成19年度	平成18年度
学力検査	学力検査定員 A		7,525 *(7,526)	8,126
	出願者数		8,313	8,911
	確定出願者数 (倍率)		8,241 (1.10)	8,847 (1.09)
	受検者数 B (倍率)		8,203 (1.09)	8,809 (1.08)
	不合格者数		863	874
	入学許可予定者数 C		7,340	7,935
	合格率 C/B(%)		89.5	90.1
二次選抜	二次選抜定員 A-C		186	191
	出願者数		165	163
	受検者数 D (倍率)		160 (0.86)	156 (0.82)
	不合格者数		64	40
	入学許可予定者数 E		96	116
	合格率 E/D(%)		60.0	74.4
合計			7,436	8,051

\* 推薦入学許可予定者で1名辞退があったため、( ) に実数を表す。

(3) 入学者選抜の結果

3月14日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,414人であり、その内、推薦選抜による者は1,937人(推薦入学許可予定者のうち1名辞退あり)、特色選抜による者は1,138人、一般選抜による入学許可予定者数は7,340人であった。また、3月23日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は96人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,510人となった。そのうち、全日制では募集定員10,320人に対して入学許可予定者数10,313人となった。

4月9日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,499人で、募集定員の99.0%(昨年度99.2%)となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成19年度			平成18年度
			全日制	定時制	合計	
県内中学校卒業予定者数					13,921	14,367
募集定員 A			10,320	280	10,600	11,000
推薦選抜入学許可予定者数			1,933 *(1,932)	4	1,937 *(1,936)	1,878
特色選抜入学許可予定者数			1,138	—	1,138	996
一般選抜入学許可予定者数			7,182	158	7,340	7,935
二次選抜入学許可予定者数			61	35	96	116
総計	入学許可予定者総数		10,313	197	10,510	10,925
	実入学者数 B				10,499	10,913
定員充足率 B/A(%)					99.0	99.2

県内中学校卒業予定者数は各年度1月15日教育総務課調査による。

\* 推薦入学許可予定者で1名辞退があったため、( ) に実数を表す。

中高一貫教育に係る併設型高等学校の特例による入学許可予定者は除く。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ農業学科、工業学科、商業学科、総合学科の5学科（昨年度4学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	国際	総合
募集定員	A	10,600	7,080	440	1,000	520	160	80	40	40	40	40	80	1,080
推薦 選抜	募集枠(人数)	2,098	886	220	196	240	60	—	30	—	30	—	40	396
	受検者数	B	2,287	938	220	153	336	114	—	47	—	47	—	40
	入学許可 予定者数	C	* (1,936)	* (816)	205	149	238	60	—	30	—	30	—	33
	合格率	C/B	84.7	87.1	93.2	97.4	70.8	52.6	—	63.8	—	63.8	—	82.5
	合格率	C/B	84.7	87.1	93.2	97.4	70.8	52.6	—	63.8	—	63.8	—	82.5
特色 選抜	募集枠(人数)	1,138	826	—	232	—	—	40	—	20	—	20	—	—
	受検者数	D	3,671	3,131	—	390	—	—	73	—	44	—	33	—
	入学許可 予定者数	E	1,138	826	—	232	—	—	40	—	20	—	20	—
	合格率	E/D	31.0	26.4	—	59.5	—	—	54.8	—	45.5	—	60.6	—
	合格率	E/D	31.0	26.4	—	59.5	—	—	54.8	—	45.5	—	60.6	—
一 般 選 抜	学力検査定員	7,525	5,437	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A-(C+E)	* (7,526)	* (5,438)	235	619	282	100	40	10	20	10	20	47	705
	確定出願者数	8,241	**5,078	242	519	321	125	***	***	22	***	***	57	751
	受検者数	F	8,203	**5,052	241	514	319	125	***	***	22	***	***	57
	入学許可 予定者数	G	7,340	5,391	234	507	257	100	40	10	20	10	19	47
	合格率	G/F	89.5	****	97.1	98.6	80.6	80.0	****	****	90.9	****	****	82.5
	二次選抜定員													
	A-(C+E)-G	186	47	1	112	25	—	—	—	—	—	—	1	—
	出願者数	165	67	—	89	5	—	—	—	—	—	—	4	—
	受検者数	H	160	64	—	87	5	—	—	—	—	—	4	—
入学許可 予定者数	I	96	30	—	60	5	—	—	—	—	—	1	—	
合格率	I/H	60.0	46.9	—	69.0	100	—	—	—	—	—	25.0	—	
総 計	入学許可予定者	*10,510	*7,063	439	948	500	160	80	40	40	40	40	80	1,080
	実入学者数	J	10,499	7,058	439	944	499	160	80	40	40	40	80	1,079
	過不足	J-A	-101	-22	-1	-56	-21	0	0	0	0	0	0	-1
	定員充足率		99.0	99.7	99.8	94.4	96.0	100	100	100	100	100	100	99.9
前年度定員充足率		99.2	99.7	99.8	96.4	94.6	100	100	100	100	100	100	100	

\* 普通科の推薦入学許可予定者で1名辞退があったため、( )に実数を表す。

\*\* 学校出願の数を除いた数。

\*\*\* 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて次の別表に示す。

\*\*\*\* 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目	学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	福祉		
一 般 選 抜	学力検査定員	A-(C+E)		420	40	256	10	120	10	112	20
	確定出願者数			558		293		132		143	
	受検者数	D		557		293		132		143	
	入学許可 予定者数	E		420	40	256	10	118	10	112	19

### 3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数を示したものである。

出願者数8,313人に対し、出願変更者数は721人(昨年度700人)、出願変更率は8.7%(昨年度7.9%)となり、確定出願者数は8,241人であった。

各学科別の出願変更率は、商業学科の12.8%が最も高く(昨年度の最高は農業学科が14.7%)、次に、家庭学科の11.8%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項 目 学 科	学力検査 定員	出 願 者 数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出 願 変 更 率 B/A(%)	確定出 願者数 C	出 願 変 更 者 数	出 願 変 更 率 (%)	
* 普通	4,529	5,138	440	8.6	5,078	390	7.0	
農業	235	220	14	6.4	242	45	14.7	
工業	619	483	31	6.4	519	70	11.9	
商業	282	337	43	12.8	321	35	12.4	
家庭	100	136	16	11.8	125	3	2.4	
音楽	20	22	0	0.0	22	1	4.0	
国際	47	44	2	4.5	57	1	3.4	
総 合	705	760	54	7.1	751	56	7.4	
学 校 出 願	普通・理数	460	598	61	10.2	558	29	5.1
	普通・体育	266	288	24	8.3	293	55	13.6
	普通・美術	130	151	25	16.6	132	2	1.4
	普通・福祉	132	136	11	8.1	143	13	9.5
合 計	7,525	8,313	721	8.7	8,241	700	7.9	

\* 普通科は学校出願を除く

### 4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全て全日制の課程で、愛知高等学校、北大津高等学校(国際文化科)、水口高等学校(国際文化科)、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の5校のべ10科(昨年度と同じ)であった。また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程で、北大津高等学校(普通科)、甲南高等学校(総合学科)、安曇川高等学校、信楽高等学校の4校のべ7科(昨年度は3校のべ7科)、定時制の課程では、大津清陵高等学校の昼間部・夜間部であった。実技検査を実施した学校は、八幡工業高等学校、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の3校のべ7科(昨年度と同じ)であった。

なお、作文については実施校はなかった。

## 5 学力検査について

### (1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入試から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量をみるのではなく、学校で学んだ知識を基礎に、表現力や判断力・思考力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えや気持ちを明確に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現・処理する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図や統計、図表などの各種の資料を活用して考察し、判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などの、実践的コミュニケーション能力をみることをねらいとした。

### (2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の科目の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点(5教科合計で540点満点)、水口高等学校国際文化科で英語の配点を150点満点(5教科合計で550点満点)とする傾斜配点を実施し、草津東高等学校体育科は国語、数学、英語の3教科のうち得点の高い2教科を150点満点(5教科合計で600点満点)とする傾斜配点を実施した。

また、八幡工業高等学校では、社会の検査に代えて実技検査を実施した。

### (3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は、国語55.1点、数学43.1点、社会54.9点、理科50.9点、英語48.4点であった。

参 考

旧通学区域別普通科（全日制）の入学許可予定者数等について

大津・湖南・甲賀旧通学区域の普通科（全日制）の入学許可予定者数等

通学区域 項 目		大 津		湖 南		甲 賀	
		19年度	18年度	19年度	18年度	19年度	18年度
募集定員		1,760	1,840	1,400	1,480	880	960
推薦選抜、特色選抜入学許可 定者合計		372	364	341	262	207	212
学区内		234(62.9)	249(68.4)	217(63.6)	166(63.4)	185(89.4)	168(79.2)
学区外 A		112(30.1)	97(26.6)	92(27.0)	55(21.0)	16(7.7)	28(13.2)
学区外 B		26(7.0)	18(4.9)	32(9.4)	41(15.6)	6(2.9)	16(7.5)
一 般	入学許可予定者数 合計	1,387	1,476	1,057	1,218	666	733
	学区内	1,034(74.5)	1,084(73.4)	738(69.8)	817(67.1)	598(89.8)	668(91.1)
	学区外 A	309(22.3)	346(23.4)	244(23.1)	300(24.6)	40(6.0)	35(4.8)
	学区外 B	44(3.2)	46(3.1)	75(7.1)	101(8.3)	28(4.2)	30(4.1)
二 次	入学許可予定者数 合計	1	—	2	—	6	15
	学区内	1(100.0)	—	1(50.0)	—	4(66.7)	3(20.0)
	学区外 A	—	—	1(50.0)	—	1(16.7)	8(53.3)
	学区外 B	—	—	—	—	1(16.7)	4(26.7)
入学許可予定者総数		1,760	1,840	1,400	1,480	879	960
学区内		1,269(72.1)	1,333(72.4)	956(68.3)	983(66.4)	787(89.5)	839(87.4)
学区外 A		421(23.9)	443(24.1)	337(24.1)	355(24.0)	57(6.5)	71(7.4)
学区外 B		70(4.0)	64(3.5)	107(7.6)	142(9.6)	35(4.0)	50(5.2)

注 ・学区内および学区外の（ ）の数値は、それぞれの入学許可予定者に対する割合〔%〕を示す。  
 ・学区外 A は、大津・湖南・甲賀旧通学区域の内の学区外を示す。  
 ・学区外 B は、湖東・湖北・湖西旧通学区域、県外を示す。

湖東・湖北・湖西旧通学区域の普通科（全日制）の入学許可予定者数等

通学区 項 目		湖 東		湖 北		湖 西	
		19年度	18年度	19年度	18年度	19年度	18年度
募集定員		1,440	1,480	1,080	1,120	400	440
推薦選抜、特色選抜入学許可 定者合計		324	285	324	274	74	55
学区内		290(89.5)	256(89.8)	314(96.9)	257(93.8)	64(86.5)	50(90.9)
学区外		34(10.5)	29(10.2)	10(3.1)	17(6.2)	10(13.5)	5(9.1)
一 般	入学許可予定者数 合計	1,103	1,187	756	842	324	384
	学区内	1,022(92.7)	1,109(93.4)	735(97.2)	827(98.2)	312(96.3)	375(97.7)
	学区外	81(7.3)	78(6.6)	21(2.8)	15(1.8)	12(3.7)	9(2.3)
二 次	入学許可予定者数 合計	13	8	—	4	2	1
	学区内	12(92.3)	7(87.5)	—	0	1(50.0)	1(100.0)
	学区外	1(7.7)	1(12.5)	—	4(100.0)	1(50.0)	—
入学許可予定者総数		1,440	1,480	1,080	1,120	400	440
学区内		1,324(91.9)	1,372(92.7)	1,049(97.1)	1,084(96.8)	377(94.3)	426(96.8)
学区外		116(8.1)	108(7.3)	31(2.9)	36(3.2)	23(5.8)	14(3.2)

注 ・学区内および学区外の（ ）の数値は、それぞれの入学許可予定者に対する割合〔%〕を示す。



[ 単位制 転・編入学、通信制の課程 ]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、35人（昨年度42人）の出願者があり、定員40人に対し0.88倍（昨年度0.93倍）の倍率となった。また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、191人の出願者（昨年度241人）に対して、191人（昨年度241人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、63人（昨年度89人）が入学許可予定者となり、合計254人（昨年度330人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員	出願者数	入学許可 予定者数	率		出願者数	入学許可 予定者数	入学許可 予定者数	募集定員 との差
		A	B	C	C/A		E	F=C-D+E	F-A	
平成 19 年度	単位制 転 編入	40	35	35	0.88	0	2	2	37	-3
	通信制	320	191	191	0.60	0	63	63	254	-66

平成 18 年度	単位制 転 編入	40	42	37	0.93	0	3	3	40	0
	通信制	320	241	241	0.75	0	89	89	330	+10

## 国 語

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えや気持ちを明確に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「受検生の感性にふれる文章で、出題も多岐にわたっており良問であった。」「難度の高い評論文からの出題は、読み取る力をはかるうえで良問であった。」「設問の内容として、基礎的な言葉の力、筆者の気持ちを読み取る力、表現する力を問う問題がバランスよく盛りこまれていた。」などの意見があった。

各問いについては、作文に関して「受検生にとって身近で書きやすいテーマであった。」「表現する力、論理を組み立てる力をみるのに適した設問であった。」などとする意見があった。

また「古典」に関する出題で、和歌の解釈を必要とする問いに対しては「古典的素養を問う良問であった。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

□において、漢字の問いについては、「幸い」の書きの正答率が低い以外は、おおむね良好であった。主語を文節で抜き出す問いについては正答率が17.4%と低く、また、比喩の指示する内容を抜き出す問いの正答率も50%程度にとどまった。このことから、文章に親しむ態度の育成を今後も一層すすめるとともに、文の構成要素について理解する力の育成など、言語事項に関する基礎的な力を身につけさせる必要がある。また、同じ季節感を詠んだ和歌を選ぶ「古典」に関する問いについては正答率が81.1%、筆者の気持ちを読み取り答えを選ぶ問いについても正答率が66.5%とおおむね良好であったが、文章の主題にかかわって読み取ったことを字数内にまとめて書き表す問いの正答率が13.1%と低いことから、筆者の考えを正しくとらえ、指示にしたがい字数内で要約する力のさらなる育成が求められる。

□の作文では、自分の考えをまとめ、適切に表現する力を求めた。身近なテーマであるために提案は明確に書かれていたが、具体的な説明や提案の理由が書き表しきれていない解答が多く、正答率も昨年度よりは良好であったものの24.3%と低かった。このことから、今後とも、具体的に、しかも簡潔に自分の考えをまとめ、相手に正しく伝わるよう適切に表現する力のさらなる育成が望まれる。

□においては、文脈に沿って筆者の考えを読み取り答えを選ぶ問いの正答率は52.9%、文と文の接続の仕方についての説明として正しい答えを選ぶ問いの正答率は60.3%であった。それに比べ、指示語の内容を記述したり、文章の展開に即して内容をとらえて記述する問いの正答率が低いことから、文章の要旨を正確にとらえる力はもとより、指示された条件にしたがって要約し、適切に書き表す力のさらなる育成が望まれる。

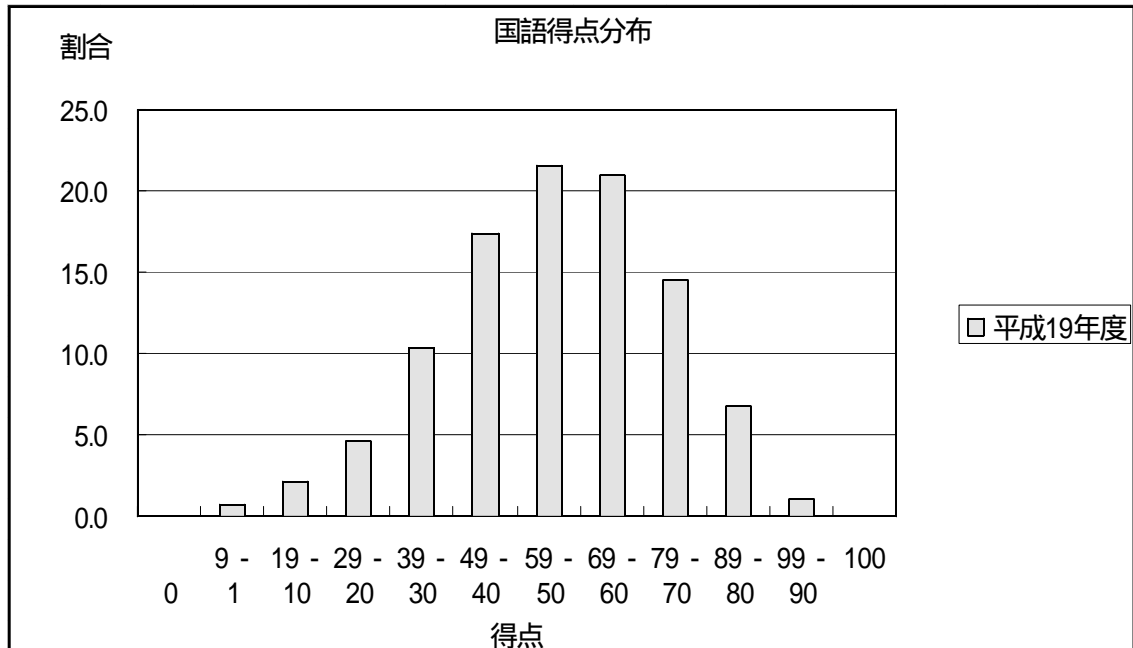
全体として、文章を正確に読み取り、書かれた内容を理解する力についてはおおむね身につけていると思われる。しかし、自分が理解した内容および自分が主張したい考えや思いなどを、指示された条件にしたがって書き表す力や、制限された字数内にまとめて適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
☐	1	79.6
		84.8
		48.6
		85.3
		82.3
	2	81.1
	3	17.4
	4	66.5
	5	51.7
	6	13.1

問題区分		正答率 (%)
☐	☐	24.3
	1	92.6
		85.0
		88.3
		49.5
		83.2
	2	35.5
	3	35.2
	4	60.3
	5	52.9
	6	20.2
	7	10.2

年 度	平均点	標準偏差
平19 (100点満点)	55.1	17.6



## 数 学

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現・処理する力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な問題から応用力を問うような問題まで、幅広く出題されており、全体的に見て良問であった。」「日常の事象に関連したことを数学的に考察したり、図形の基本的な性質を理解しているか、あるいは論理的に考察しているかをみるのに大変良い問題であった。」「日頃の指導を意識させる意図が感じられて良かった。」などの意見が寄せられた。

大問①、②については「リーグ戦の問題やさいころの回転などが日常生活ともつながっており、興味深い。」「日常に現れる事象を数学的にとらえさせる非常に好感のもてる問題。」「数学的な見方・考え方を見る良問。」などの意見があった。また、大問③については、「図形に対する直観力、洞察力を総合的に見ることのできる問題。作図・証明問題などよく工夫されている。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

①では、数や文字の計算、連立方程式の解法といった基礎的・基本的な問題や、2乗に比例する関数の基本的な問題については正答率が高く、よく理解できていた。総あたり戦の試合数を素材とした問題では、具体的な条件のもとでの起こりうる場合の数を求める小問の正答率が高いが、数の規則性を表や図を活用して文字を用いた式に一般化する小問は正答率が低く、事象を数理的に考察する力を育成する必要がある。また、さいころの移動を素材とした問題では、やや複雑な条件のもとで空間図形の構成要素に着目して考える小問の正答率が低く、文章によって表現された操作の内容を解釈し、数学的に考察する力を身につけておくことが求められる。

②の水を入れた容器を傾けたときの水面の動きや水の体積の変化について考察する問題では、直観的な見方や考え方で答えを導くことのできる問題は正答率が比較的高いが、図形的な思考をもとにして変化や対応を調べ数量関係を考察する問題の正答率が低い。中学校で学習した数学の各領域の内容を総合的に用いて関数関係を見だし、表現したり考察したりする力の育成が求められる。

③の平面図形の問題では、扇形を組み合わせた図形の面積を求めたり、与えられた条件をもとに点の位置を作図する問題は正答率が比較的高かったが、与えられた図形の中で三平方の定理を適用する問題や、図形の性質を証明する問題は正答率が低く、与えられた図形の性質について直観的に考えるとともに、見通しを持って論理的に思考し、推論の過程を的確に表現する力の育成が求められる。

全体として、数や文字の計算、方程式、関数の基礎的・基本的な事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、断片的な知識・理解にとどまることなく、事象を数理的に考察できるようにするために、必要な既習事項を正しく組み合わせ問題を解決する能力を高めるとともに、数学的な見方や考え方を活用する態度の育成が望まれる。

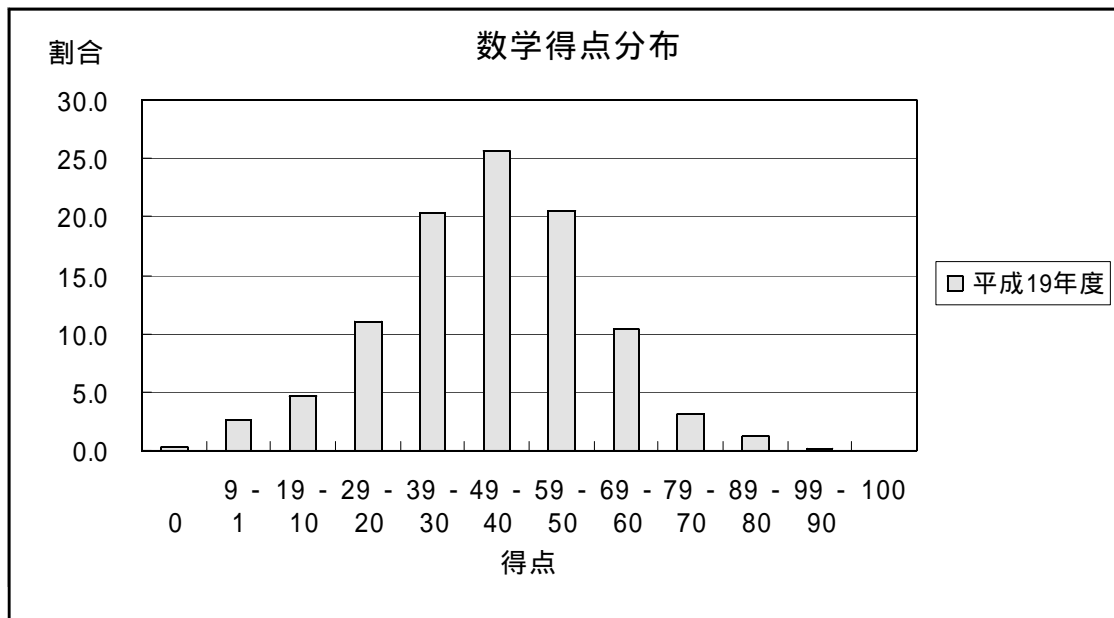
# 数 学

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	98.3
		89.5
		87.0
		81.0
		61.3
	(2)	81.8
	(3)	71.7
	(4)	94.0
		19.6
	(5)	47.8
16.6		

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	40.5
	(2)	3.1
	(3)	2.9
	(4)	5.2

問題区分		正答率 (%)
3	(1)	37.9
	(2)	46.9
	(3)	12.4
	(4)	4.3
		4.7

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平 19 ( 100点満点 )	43.1	16.2



## 1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図や統計、図表などの各種の資料を活用して考察し、判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

「資料の読みとりが多く、暗記した知識の量を問う問題ではなく、思考力、判断力を問う良問が多かった。」「複数の地図や統計資料を関連させて的確に読みとって判断させる問題は良問であった。」「三分野を均等に扱い、地図や統計資料などを的確に読みとって判断させる問題で、基礎的・基本的な内容の理解度をはかろうとする良問であった。」「答えを選んだ理由を説明させる問題が出題され、それによって内容に対する理解度や表現力が確認できた。」「各問ともグラフや地図、年表など資料を読みとり、多角的・多面的なものごとを考えさせる問題が多く見られた。」「出題量も適当で、地理、歴史、公民の三分野の出題バランスも良い。単に暗記した事柄をそのまま解答させるのではなく、学習指導要領で求められている力を試そうとする出題意図がみてとれる。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

①は、略地図をもとに、緯度と経度、時差などの基本的事項の理解をみるとともに、資料を活用して、貿易や産業について多面的・多角的に考察し、判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。略地図やグラフなどをもとに考える問題では、正答率が70%以上であり、基礎的・基本的事項についてはほぼ理解できている。しかし、貿易額の変化を複数のグラフをみて指数から読みとる問題や、港別の主要貿易品目の特徴から略地図中のあてはまる港を選んだ理由を記述する問題では、正答率が10%台にとどまっているため、今後は複数の資料や地図を活用して多面的・多角的に考察し判断していく力や、資料から読みとったことを適切に表現する力を育てていく必要がある。

②は、略年表や資料をもとに、歴史の大きな流れと各時代の特色についての基本的事項の理解をみるとともに、各時代の主な法令と社会のようすについて考察し判断する力や、適切に表現する力をみる問題であった。主な法令の特徴やかかわりのある人物、各時代の社会のようすや文化に関する問題では、正答率がおおむね50%を超えており、基礎的・基本的事項の理解がほぼできている。しかし、時代の特色をあらわした資料をより深く正確に読みとらせる問題では正答率が低く、資料のもつ歴史的な意味を正しくとらえさせることが課題である。

③では、資料などをもとに、基本的人権、企業、裁判員制度についての基本的事項の理解をみるとともに、家族構成の推移や選挙制度について考察し、判断する力をみる問題であった。基本的人権や企業、選挙制度の問題で正答率が60%を超えたものが多く、家族構成の推移に関するグラフの読みとり問題も60%を超える正答率であった。このことから、公民的分野における基本的事項の理解ができていることや、現代の社会的事象に高い興味・関心を持っていることがうかがえる。

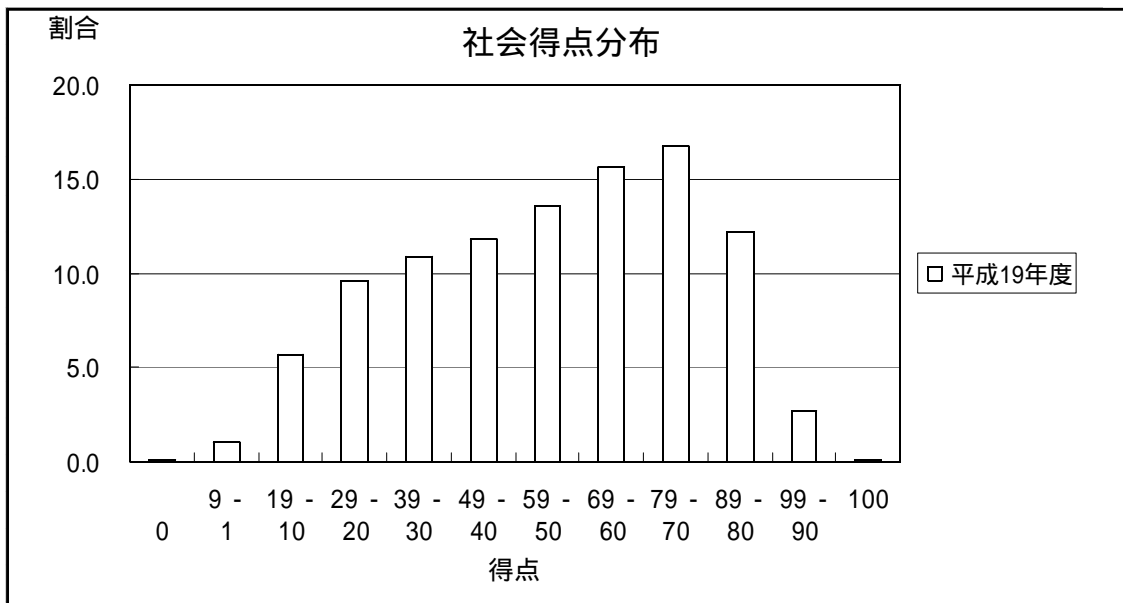
全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかしながら、今後は資料からさまざまな情報を適切に読みとる力を育成する必要がある。また、資料を読みとり、得た知識を活用して総合的に思考・判断し表現する力を高めていく指導が望まれる。

# 社 会

問 題 区 分		正答率 (%)		
1	1	( 1 )	79.3	
		( 2 )	47.4	
		( 3 )	57.0	
	2	( 1 )	70.8	
		( 2 )	16.0	
	3	( 1 )	記号	32.0
			理由	16.3
		( 2 )	50.1	
		( 3 )	87.0	
		( 4 )	54.6	

問 題 区 分		正答率 (%)		
2	1		66.9	
	2	( 1 )	59.4	
		( 2 )	53.0	
	3	( 1 )	49.3	
		( 2 )	68.9	
	4		5.8	
	5	( 1 )	42.7	
		( 2 )	47.0	
	6		52.6	
	7		51.5	
	3	1		78.7
		2	( 1 )	58.5
			( 2 )	68.5
		3	( 1 )	27.3
			( 2 )	64.1
4		66.1		
5		44.8		

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平19 (100点満点)	54.9	22.3



## 理 科

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、自然の事物・現象について科学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身のまわりの事物・現象、身近なものを使っての実験をもとにした出題で、観察や実験に日頃からしっかりと取り組み考察するという姿勢を求めている点良かった。」「単に知識を求める問題ではなく、グラフや図を読み取る力など科学的なものの見方・考え方を問う良問である。」「物理、化学、生物、地学の各分野からバランスよく出題されており、基本的事項から探究的な内容までよく工夫された問題であった。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

①では、観測記録に基づいて気象要素の変化を読み取る問題や、天気の変化の規則性についての基本的な事項を問う問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。しかしながら、実験や観察した結果を、自然現象と結びつけて考察する問題や、複数の観察結果を総合して記述する問題は正答率が低く、今後さらに自然を探究する能力や結果を考察して表現する能力を育成していくことが望まれる。

②では、化学反応に関する基本的な法則を問う問題や、実験データをグラフ化する問題については正答率が高い。このことから、化学反応における基礎的な事項を理解させることや、実験結果を適切に処理する能力を育成することは、おおむね達成できていると考えられる。一方、反応する物質の量を計算によって求めるなどの、化学反応の前後における物質の量の関係を問う問題については正答率が低く、今後は、実験によって得られた結果を多面的に考察する力の育成が求められる。

③では、光合成と呼吸による二酸化炭素の出入りや光合成を行う器官、光合成で作られた物質の移動など、光合成に関する基礎的な事項は理解度が高い。しかしながら、成長する過程での植物体の質量変化を光合成と呼吸に関連づけて考察する問題では正答率が著しく低く、今後さらに実験結果を総合的に考察し、適切に表現する能力の育成が望まれる。

④では、スピーカーやマイクの原理を電流と磁界の変化から考察すること、オシロスコープにあらわれた波の振幅を比で表すことなど、電流と磁界、音の規則性や性質に関する基本的な問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。一方、音が空気によって伝えられることを確かめる実験を記述することや、音の高さを音の波形と関連づけて考察する問題などで正答率が低く、今後は課題を解決するために実験法を考えるなどの問題解決的な学習を進めていくことが求められる。

全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解されているといえる。しかし、事象を科学的に考察し認識する力や、探究的な過程を通して規則性を発見したり課題を解決したりする力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常の中に見られる事象に対して興味・関心をもち、基礎的な知識を基に科学的に考え、科学的に調べる能力と態度の育成が求められる。

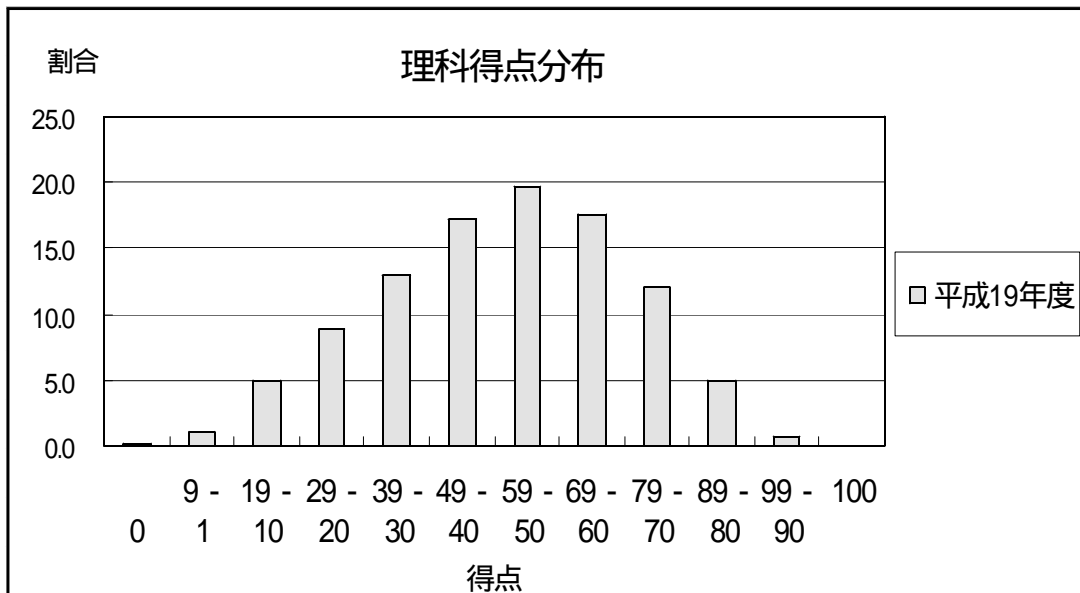


# 理 科

問題区分		正答率(%)
1	1	90.0
	2	68.3
	3	53.0
	4	27.8
	5	12.6
2	1	78.6
	2	54.2
	3	17.2
	4	58.0
	5	32.0

問題区分		正答率(%)
3	1	30.3
	2	58.9
	3	65.8
	4	62.8
	5	0.8
4	1	71.9
	2	66.5
	3	31.9
	4	53.5
	5	36.9

年 度	平均点	標準偏差
平19 (100点満点)	50.9	19.1



## 英 語

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などの、実践的コミュニケーション能力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

「基本的な力を試す問題から、考察力や確かな学力を必要とする問題までバランスよく出題されている。」「英文の理解や、様々な場面に応じて英語で表現する力を評価するのに適した問題である。」「実践的コミュニケーション能力をみるよう自己発信型の問題が多く、良問揃いであった。」「受検生に自分の言葉で表現させることが意識されておりよかった。」「職場体験学習や図書館だよりなど中学生にとって身近な話題で、全体的に素直な問題であった。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

①の聞きとり問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率の平均は75.5%と高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が現れている。しかし、まとまった内容のスピーチを聞いて、具体的な内容や大切な部分を理解して英問英答する問題や、相談に対する適切なアドバイスを英語で表現する問題においては正答率が低い。日頃から言語の使用場面の設定を工夫し、その場面に適した応答を繰り返し練習させることにより、多様な応答に慣れ親しむ指導を一層充実させることが望まれる。

②は、「職場体験学習」についてのスピーチを題材にした問題である。空所に適切な語を補ったり、内容を選ぶ問題は、比較的高い正答率であり、書かれた内容の大まかな流れや中心となる事柄などを読み取る力は身に付いていると考えられる。一方で、英文を読み理由や内容を正確に記述する問題や、「感謝の言葉」を英語で表現する問題は正答率が低かった。指示語の内容や文の構造を確認しながら英文を読んだり、身近にある様々な話題について、自分の考えや気持ちを適切に英語で表現する機会を与える等、実践的コミュニケーション能力をさらに育てる環境づくりと指導が求められる。

③は、生徒と先生の会話を題材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。日常会話における適切な応答表現を選択肢から選ぶ問題や、省略された部分を読み取る問題、会話の流れを把握しているかどうかをみる問題は、50~70%程度の正答率であったが、語句を正しく並べかえる問題や、文脈に沿って内容を正確に把握する問題、英問英答や、自分の考えを英語で表現する問題の正答率は低かった。まとまった内容の物語や説明文を的確に読み取ったり、英語で適切に表現したりする力を伸ばすことを重視した指導が必要である。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力はあるが、細部の聞き取りや、英文の詳細を的確に読み取る力が十分に定着していない。実践的コミュニケーション能力の基礎を養う観点から、英文の正確な語順や構造を意識させるとともに、英語で表現することへの関心・意欲を高める工夫を取り入れて、ある程度まとまった分量で自分の考えや気持ちを書いたり話したりする活動を繰り返し、相手に正しく伝える力を育成することが望まれる。

## 英 語

問題区分		正答率(%)
1	《その1》	1 93.2
		2 63.5
		3 69.9
	《その2》	1 82.0
		2 38.1
		3 71.8
		4 54.3
	《その3》	1 16.0
		2 4.1
	《その4》	
2	1 51.4	
	2	76.6
		67.3
	3 14.2	
	4 40.4	
	5 13.8	
6 9.8		

問題区分		正答率(%)
3	1	68.4
		65.7
	2 71.6	
	3 38.4	
	4 69.7	
	5 9.1	
	6 50.4	
	7	(1) 14.4
		(2) 42.3
8 52.5		
9 10.0		

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平19(100点満点)	48.4	22.3

